

教育委員会 平成 25 年度 7 月定例会会議録

○日時 平成 25 年 7 月 17 日（水） 9 時 30 分開会、10 時 13 分閉会
非公開 10 時 28 分閉会

○場所 鎌倉市役所 全員協議会室

○出席委員 山田委員長、朝比奈委員、下平委員、齋藤委員

○傍聴者 6 人

○本日審議を行った案件

1 報告事項

(1) 委員長報告

(2) 課長等報告

ア 行事予定（平成 25 年 7 月 17 日～平成 25 年 8 月 31 日）

2 議案第 10 号 「平成 26 年度使用教科用図書の採択」について

3 議案第 11 号 県費負担教職員人事の内申について

4 議案第 12 号 鎌倉市教育委員会職員の人事について

山田委員長

定足数に達したので、委員会は成立した。これより 7 月定例会を開会する。

本日の会議録署名委員を朝比奈委員にお願いする。

会議を始める前に、このたび齋藤千歳委員が新たに加わったので、一言ご挨拶を願う。

齋藤委員

ご紹介をいただいた齋藤千歳である。よろしくお願ひしたい。

私は鎌倉市で教職に奉職して、それ以来ずっと現場で子どもたちと先生方と地域の方々と頑張った。

このたび、このような大役を仰せつかり、鎌倉市の教育のために今まで培ってきたことをできるだけ発揮し、そして皆様とともに学んでいく中で、鎌倉市の教育に力を注いでまいりたいと思っている。どうぞよろしくお願ひしたい。

山田委員長

本日の議事日程は手元に配付したとおりである。なお、日程 3 議案第 11 号、日程 4 議案第 12 号については人事案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 13 条第 6 項の規定により非公開としたいが、ご異議はないか。

(異議なし)

山田委員長

異議なしと認め、議案第11号、議案第12号については、非公開とする。
では、日程に従い、議事を進める。

1 報告事項

山田委員長

日程第1、報告事項に入る。

(1) 委員長報告

山田委員長

私どもは先月、委員会の後に6月25日に臨時教育委員会を開いて、人事案件について協議した。その同日、私は総合計画審議会の第7回の会合に出席した。このたびの世界遺産登録についての結果が出て初めての会合だったので、今後の方向性をめぐって、さまざまな意見交換がされた。

長年、世界遺産のプロジェクトにかかわっていらした方にとっては、思わぬ大変無念な結果となって、まだそのショックから抜け切れないところでもあったが、一方で大変厳しい結果を受けて、今後の計画への記載について、現在修正を行っている。

26日、翌日には下平委員が手広中学校の授業づくり研修会に出席なさったので、ご報告をお願いしたい。

下平委員

6月26日に手広中学校で行われた授業づくり研修会に参加した。「道徳の授業の進めかた」というテーマで、川崎市立日吉中学校の南雲先生が講師としてお越しくくださった。

授業の進め方としては、手広中学校の三栗谷先生という若い女性の先生が「きらめき」という教本に沿って、集まった先生方を中学生の生徒と見立てて、実際に道徳教育を進めていくという方法で進行した。

私も中学生として参加して、実際に授業を体験した。南雲先生のご指導のかいもあって、非常に活性化した話し合いが進んだ。例えば、必ず立って発言をさせる。その意義は、だんだん教室のエネルギーが動いてくる。立って発言することでみんなの注目を浴びて、これは心理的にも存在を認められるという非常にエネルギー充電のいいチャンスになる。ちょっとしたそういう工夫が授業を動かしていくんだということを学ばせていただける、非常にいい体験だったと思う。

この三栗谷先生は臨任の先生で、非常に声も生き生きと明るく、笑顔も魅力的で、テンポもよく、黒板の字がまた見事に美しく、うっとりしながら授業を拝見していた。こういう先生に、ぜひ鎌倉市の教育に市民として加わっていただきたい、長くかかわっていただきたいと強く実感した。

質問も兼ねて教育センター長にも伺いたい。今まで私はさまざまな授業づくり研修会に伺

わせていただいているが、授業づくり研修会はそれぞれの中学校や小学校が主体になって、ほかの学校からも、どうぞ出てくださいという呼びかけはなされていると思う。

今回の道徳授業の進め方は、ほかからの先生の参加が少なかった。いろんな事情はあると思うが、そのほかの研修会でも現場にいる先生方にこの話を聞いてほしい、ここを拝見してほしいなと思うことが今までもたくさんあった。例えば、各学校から一人でも来ていただければ、それを学校に持ち帰って、何かの機会にシェアすることはできるけれども、一人も参加しなければ、せっかくいいものやっていると、それがシェアされないととても残念だなと思う。

こういう研修会を企画しても、先生方の参加があまりないのは何が原因になっているのか、一度検討していただく必要があると思う。

例えば頻度が多過ぎるとか、時間の設定とか、先生方自身のモチベーションの問題、こういう研修会に対する意欲の問題なのか、それとも教育委員会、あるいは教育委員に対する不信感とか、何かそういうものがあつたら大変な問題だと思うし、せっかくいいものやっていると、現場の先生方の刺激、動機づけ、勉強の機会により生きるような、そういう検討が必要ではないかと、ここまでいろいろ参加させていただいて感じている。ご意見があつたら伺えれば、ありがたいと思った。

教育センター所長

委員のご指摘はごもっともだと思う。センターとしてもできる限り、いろんな先生に参加してもらえるように考えてはいきたいと思っている。ただ、おっしゃるとおり、授業づくり研修会、またもう一つの出前研修会で、学校課題研修会というのをやっているが、これはそれぞれの学校を会場にして、それぞれの学校が講師を選定して行っていて、なぜこういうことをやるようになったかという、例えば市役所に講師を呼んで研修会を行うと、どうしても学校をあげなければいけないので参加しにくいという声があつたのも事実である。それならば発想を変えて、学校に出向いて研修をやる、そうすれば少なくともその学校の先生は全員参加できるということで、センターとしては出前型の研修会にここ5～6年、力を入れてきた。

ただ、せっかくそれぞれの学校でやるといっても、かなり著名な講師を呼ぶこともあって、もったいないので、それぞれの学校に参加を呼びかけているけれども、残念ながら、こちらもとしても参加していただきたいのはやまやまだが、それぞれの学校の事情もあるようで、ご参加いただけない学校が多いのも事実である。

それについては、ご指摘のとおり、今後参加しやすいようにするにはどうすればいいのか検討はしていきたいと思うが、趣旨としては、その学校が課題としていること、その学校にとって必要なことをやっている、それがほかの学校には合わないというのも正直あるかもしれないし、かといって確かに共通しているそれぞれの学校に必要な部分もあるので、宣伝というか、できるだけ参加してもらるように呼びかけは強めていきたいと思う。

ただ、正直に言って、どういう原因があるのか分析していかなければいけないとは思いますが、こちらが今現在思っているのは、先生方に余裕がないと。気持ちの面、時間的な面、両方を含めて余裕がないというのが正直なところかと思っている。ただ、そういう時間的な部分も含めて、自分で努力して作るということも必要なことだと思う。その辺も含めて、今後

なるべく参加してもらえるように研修の中身を高めて、ぜひ時間を作ってでも参加したいというような研修会を開催していきたいと思っている。

下平委員

私も企業研修の講師として公開講座などをしているので、一般社会の常識だと、非常に危機感を持っているので、そんなに出向いてまで研修なんてやらなくても、全国から求める人、自分を高めたいと思う人、問題を解決したいと思う人は、交通費、宿泊費をかけて、いい講座を全国で探して必死になっている。

余裕がないというのわからないでもない現状を見てきている。でもその余裕のなさ、要するに問題解決を遅らせている要因の一つに知識不足、いろんなことに刺激を受けて心と体が動いてないことによる悪循環があるような気がする。先生方の世界がもっと広くなれば、自分の世界が広がって、心と体が動き出せば、問題解決が早くできることもたくさんある気がしてならない。

そういうことを考えると、前例踏襲でやってきていることが、今の実情にマッチしていないとか、ある意味、学校の先生方の意識改革みたいなものも必要なのかもしれないし、その辺は一緒に考えながら、時間をかけて私たちが苦勞しているのであれば、実りのある、本当に求めている人たちに、必要なところに届く研修、刺激し合う場みたいなものを考える必要がある。

感じたことを申し上げたが、よろしくお願ひしたい。

別件になるが、私の会社のスタッフのところ、偶然、中央図書館から図書館のアンケートが届いた。利用者の方々へ図書館に対するご要望などを聞き取るアンケートで、菊池館長には頑張っていて非常に感動したのだけれども、そのアンケート結果を生かして、ぜひより利用者にとって使いやすい図書館になっていくといいなと思ひながら拝見していた。

山田委員長

館長から何か。

中央図書館長

利用者と市民の方2,000名くらいに無作為抽出でアンケート調査をやって、それに基づき、新たな鎌倉市の図書館のサービス計画を作っていこうかなと思っているので、その声を大事にして、やっていきたい。

また、そのサービス計画の骨格等ができれば、教育委員会にもご報告等をさせていただきたいと思っている。

山田委員長

翌日27日には、小坂小学校で開催された危機管理対応能力育成研修会に私が参加した。テーマは「いじめ理解とその指導」ということで、大変注目を集めているテーマでもあり、どのように解決をご指南いただけるのか、興味深く期待しながら伺った。

その先生からご指導いただいた一つのことは、心には一次意識と二次意識という二つのものがあると。一次意識はマイナスのことが多い、面倒くさいとか、だるいとか、つまらない

とか、そう思ってしまう一次意識と、いや頑張りたいとか、自分を向上させたいとかという願望、そして未来的な二次意識というものがある。こういうふうに分で作る思いが二つあると認識するようになるとのことだった。

大事なのは、マイナス思考のものもあっていいんだよと生徒にしっかり認識させて、その上で、自分でいい思いを作っていこうと導くことが大事だと。今の子どもたちは、自分で思いを作ることができないお子さんが多いとおっしゃっていた。

繰り返しになるが、マイナスの意識を認める。普通はそんなのはだめとか、そんなふうを考えてはだめだよと言ってしまいがちだが、そうだよ、そういう気持ちもあっていいんだよ、そう思っちゃよ、僕だって思っちゃよ、だけど、こういういい思いを作っていこうよと、プラスの二次意識を作ることにエネルギーを向けられるようにすることが教師の役割だとおっしゃっていた。

そうは言うけれども、本当にそんなことはできるのかなと私は感じたのだが、研修後に先生方とお話をしたら、早速それを実行されている方もいらっしゃるようだし、非常に役に立って勉強になったと後日伺ったので、よかったと感じている。

その小坂小学校に、9日に朝比奈委員、そして齋藤委員とともに学校訪問した。そこで今の反応もお聞きした。新しい校長先生が今年から入られた学校で、入り口に教育委員さんようこそなんてちょっと旅館に入った気分、歓迎の黒板があったり、地域の方がお花を生けて玄関でお迎えくださったりと、非常におもてなしの心を感じた訪問だった。

いろんな授業を拝見した中で、私が印象的だったのは、英語のALTの先生の授業がとてもよかった。テンポもものすごくよかったし、生徒たちが、わっと先生に意識を最大限に集中して参加し、生き生きとわくわくしながらやっている様子を見て、本当に先生がお上手だな。いろんな学校を訪問すると、その先生の資質による授業のクオリティの違いが非常に大きいと、特にこの英語教育に関しては感じるもので、もう少し平均的にレベルアップするために、いいところは何がいいのか、それをほかにも応用できるようなシステムができるといいのかなと漠然と感じた。

生徒の中にはちょっと問題を抱えている方もいて、そういう場面にも遭遇したけれども、とても先生方が上手に対処していらっしゃるのをこのたびは拝見した。そして周りの生徒さんがそれにも増して冷静に対応していて、クラス替えからまだ数カ月の慣れない中ではあったが、不意なことが起きたときには、さっと数人のお子さんが机を外に持ち出したり、いろんな対応をしていらっしゃる姿にとっても感心した。

ご参加されたお二人からも何かあれば、お願いしたい。

齋藤委員

公立の小学校を何年かぶりに拝見して、とても懐かしく思った。その中で、小坂小学校の先生方の子どもへの取り組みは、私の心にああいいなと感じさせていただくことができた。先生方が真剣に子どもと取り組んでいる姿、そして、どの子も先生の意気込みを感じ、自分たちも伸びようという思いを強く持っているんだと感じさせるような授業風景がたくさんあった。そこで私も元気をいただいた。

掲示物には日ごろの教育の成果がよくあらわれるものだと私は思っているが、いろいろな教室に掲示されている物に非常に心がこもっている、子どもの情熱を感じさせるような作品

がたくさんあった。そこに先生方の日ごろの教育の熱心さを伺うことができ、すばらしいと思って帰った。

校長先生、教頭先生、他の方々が、とにかく一つになって学校をよくしていこうという意気込みも、あらゆるところに感じる事ができて、いい学校訪問をさせていただいたと思っている。

朝比奈委員

私も同行させていただいたが、入り口の旅館のウエルカムみたいなのは、いつもこんなものがあつたかなというくらい、うれしかった。

個人的なことだが、入り口に大きな油絵があつて、それが私のお寺の山門の絵だつたものだから、これは誰の絵なんだろうと思った。校長先生はまだ入られたばかりで、ご存じなかつたのだが、そんなのが偶然としてすごくうれしかった。

例によって授業も、公開授業ではないので、つかつかと教室に入っていくのはばかられて、私は廊下に近いところから見たけれども、夏の暑い時期だから、水分補給のために水筒の教室持込みが許されているのだと思うのだが、授業中にそれを飲んでいるお子さんがいたり、これは授業中にしていいのだろうか、その辺はどういう方針なのか。学校ごとに違うと思うし、あれは決して好ましくない行為だつたのかもしれないのだが、しかし、このごろの酷暑を思うと、あの日も結構暑い日だったので、体調管理上やむを得ないのかなという印象があつた。

例によってまた3年生のクラスで給食を頂戴した。小坂小学校は私の寺の近くなので、円覚寺にある北鎌倉幼稚園の卒園生が多くいる。3年生くらいだと、まだ幼稚園のときのことを覚えてくれている。どうやら私の姿がわかつたようで、幼稚園ではかかわりもあるので、すごく親しく接してくれたのがうれしかった。しかも直前にちょっとNHKの番組に私が出たものだから、それも覚えていてくれて、出ていたでしょうなんて、子どもらしく寄ってきてくれたのが、すごくうれしかった。

給食の片づけも3年生だとどうかと思つて見ていたら、先生から何も言われなくても、てきぱきと分担して片づけている姿が、そのクラスで特別なことなのか、行き届いていて、大変感心した。その前にお伺いした別の学校は1年生だつたので、しかもその前の月だから、まだ小学校になって日が浅い1年生だと、さすがに何もできなかったが、1年生と3年生でこれほど違うものかと、子どもの成長に大変感心した。

給食も大変おいしく、たくさん頂戴した。本当にありがたい思いをした。

山田委員長

その給食で一つ思い出したが、その後にお掃除というか、汚れた机を皆で拭くときに、係ではないと思うけれども、子どもが雑巾を絞りに行って、拭こうという意識がとても気持ちがいいなと思つて、私も追っかけて行つたら、皆さん雑巾が絞れない。ねじつた状態でさらにねじるので手がこんがらがって、雑巾ばかりがぐるぐる回って、水がぼたぼたして絞れていないで、そのまま行くから廊下はびしょびしょだし、拭いた机も洪水のようになっている。それじゃあと言つて、何人か集めて雑巾の絞り方を教えたけれども、教えるのも結構難しいものだなと思つた。こうしてねじつてなんてやつても、1回や2回じゃ全然教えられないの

で、これは先生方をお願いしようと、校長先生にもお願いをしてきた。そんなことがあった。

28日は警察連絡協議会で、私は伺えなかったが、何か八神次長からあったら、後ほどでも結構なので、おっしゃっていただきたい。

7月10日に、近藤元文化庁長官が「これからの鎌倉」と題した講演を生涯学習センターでされて、私も拝聴した。会場は満席で、多くの市民の皆様がこのたびの勧告の背景や、今後、鎌倉が進むべき方向について興味を持たれたと感じた。

これまでの流れと今後に関する助言をお聞きした。お話の中で、日本人の価値観と世界遺産登録の基準のずれというのが大きいのが課題だと伺った。日本人は目に見えぬ価値観や精神性、ストーリーを重視するのに対して、世界は物質的に科学的に実際に証明できるものしか認めない、そういうユネスコの基準と非常に大きな差があるということだった。

近藤氏の提案は、短期的には世界の照準に合わせて、最低限の科学的物証というニーズを満たしながら、徐々に日本的価値観を浸透させる方法でいくのが唯一の方法なのではないかとおっしゃっていたと思う。そして、その日本のスタンスをきちんと英語で論理的に説明できるということも、今後不可欠になってくるのではないかということだった。

あわせて今後の都市、鎌倉という都市について、一般的に今はグローバル化した世の中で、個人のアイデンティティは都市に求められる、国は地球規模の問題を解決するには小さ過ぎるし、反面個人の個々のニーズに対応するには大き過ぎると。そういう中で、人々が自然と一体になって文化や芸術分野で力を発揮できる、その適当なサイズが都市ということだった。

鎌倉もユネスコが認める物的証拠をそろえるために、いろいろ発掘なども今後やっていかなければならないということだったが、さらなる年月と費用もかかるし、大変なのではないかなという印象を持った。

この高いハードルを乗り越えるには、そもそもの目的に立ち返って、鎌倉の歴史遺産と魅力を伝える最善の方法が、果たして世界遺産なのか、それを目指すならば、もう一度決意を新たにしなければならないのではないかと感じた次第である。

15日には、鎌倉の海水浴場130周年記念の式典に出席させていただいた。このころに横須賀線が開通したとスピーチでおっしゃっていたが、東京から多くの方が鎌倉に保養に、主に温泉に入る感覚で海にいらしていたというお話とか、最近では非常におしゃれなエリアとして、ちょっとおしゃれな人たちの夜遊びの場にもなっているということだった。

そんないろんな歴史に思いをはせながら、また大勢の監視員とか、ボランティアの方々のおかげで海水浴シーズンが無事に毎年開かれているということを実感した。

(2) 課長等報告

ア 行事予定（平成25年7月17日～平成25年8月31日）

山田委員長

次に課長等報告に移る。記載の行事予定について、特に伝えたい行事などがあればお願いしたい。

教育部次長兼教育総務課担当課長

行事予定は、議案集1ページから5ページに記載のとおりである。

なお、会場の変更があったので、ご報告をさせていただきます。

3ページ、上から4列目、危機管理対応能力育成研修会、鎌倉市役所822会議室となっているが、これは鎌倉市役所講堂に変更になった。

同じページの下から8行目、コンピュータ研修会は御成中学校となっているが、第一中学校に変更になったので、修正をお願いしたい。

なお、今回教育委員のお二人に講師をお願いしている研修会があるので、ご報告をさせていただきます。

2ページの下から5行目、鎌倉郷土研究研修会、朝比奈委員に講師をお願いしている。

3ページの上から7行目、初任者研修会、下平委員に講師をお願いしている研修会がある。

また、こちらの行事予定には記載がないが、7月30日に学校管理職研修会ということで、市立小・中学校の校長及び教頭を対象に、「東日本大震災から学ぶ子どもたちの命を守るために」という内容の講演も予定している。

質問・意見

特になし。

(行事予定報告はそれぞれ了承された)

2 議案第10号 平成26年度使用教科用図書の採択について

山田委員長

日程第2、議案第10号「平成26年度使用教科用図書の採択」についてを議題とする。議案の説明についてお願いします。

教育指導課長

議案集は、6ページから14ページをご参照いただきたい。

4月の教育委員会で「平成26年度使用教科用図書の採択方針」を議決いただいた。本日は議案集のほかに、参考資料としてお配りしているものである。

2番の、採択の手続の中では(1)小学校教科用図書については、平成22年度に採択した教科用図書と同一のものを採択する。

(2)中学校教科用図書については、平成23年度に採択した教科用図書と同一のものを採択する。

(3)特別支援学級使用教科用図書については、鎌倉市特別支援学級設置校長会において、文部科学大臣から県教育委員会を通して送付された、特別支援学校用(小・中学部)教科書目録、一般図書一覧、一般図書契約予定一覧、新たに掲載された図書等をもとに調査研究を行い、その報告を受けて採択するとしている。

従って、平成26年度に使用する小学校及び中学校の教科用図書としては、議案集7、8ページに記載の、別紙「鎌倉市立小学校平成26年度使用教科用図書一覧(案)」及び「鎌倉市立中学校平成26年度使用教科用図書一覧(案)」の教科用図書を継続して採択するものとし

て提案をする。

平成26年度に特別支援学級で使用する教科用図書は、特別支援学級設置校長会に調査研究を依頼し、各校から提出された「平成26年度特別支援学級使用教科用図書調査結果報告書」を取りまとめ、その一覧を報告として受けた。

特別支援学級で使用する教科用図書については、学校教育法第34条に規定されており、文部科学省検定本に加えて、文部科学省が作成する著作本を使用することができる。さらに、検定本、著作本での指導により十分学習効果が得られないと判断される場合には、同法附則第9条によって、一般の図書を教科用図書として採択をすることができるとなっている。

従って、各学校で子どもたちが興味を強く持つこと、主体的に学習に取り組めること、より自立して学習できることが選定の基本となっている。たとえ教科が同じであっても、一人ひとりの状態や興味、関心に合わせたものを選定するというのが、特別支援学級で使用する教科用図書の特徴となっている。

以上の観点で各学校から提出された「平成26年度特別支援学級使用教科用図書希望図書」を取りまとめ、特別支援学級設置校長会から報告されたものを事務局でその内容を確認し、まとめたものが、議案集9ページから14ページにかけてある「平成26年度特別支援学級使用教科用図書一覧（案）」となっている。

質問・意見

特になし。

(採決の結果、議案第10号は原案どおり可決された)

山田委員長

八神次長、先ほどの警察協議会で何かお話があったら、お願いしたい。

教育部次長

6月28日、学警連という形で鎌倉市の全体協議会が、きらら鎌倉で行われた。

総会なので、鎌倉署と大船署と2署から、それぞれの学警連の活動状況を報告し合う形になった。その後、県の教育委員会に配属をされている弁護士資格をお持ちの方から、一時間半くらいの講演があった。いじめを原因として自殺をした子どもの出た学校は、その後どういう状況になるのかということで、非常に生々しい事例というか、大分前の事件だったようだけれども、それぞれ時系列で、自殺に至ったのが学校の責任なのか、本人の持っているものなのか、場面場面で法的解釈をもとに話をしていただいた。

そんな中で、学校がすべきこと、教員がすべきことを具体的にアドバイスしていただき、あっという間に一時間半が過ぎ、その後も質問が絶えない状況であった。それだけ学校が切羽詰まっているというか、すごく必要としている話題だったのではないかという感想を持った。

またこういう機会は必要だと思うので、教育指導課とか教育センターが連携しながら、先生たち、学校にとって支援できるような講演あるいは研修を設けていきたいと思っている。

山田委員長

去年、私もそのイベントに出席させていただいた。たしか脱法ハーブについてご指導をいただいたと思うが、そのときは人もまばらで質問もなくという感じだった。今回は非常に興味深い内容だったのではないかとお察しする。そういうテーマも、今後お選びになる際のご参考にされればと思う。

山田委員長

以上で本日の日程は全て終了した。7月定例会を閉会とする。